



Rd.5 SUZUKA GT 450km

日付:8月27日
 天候:晴れ・気温:31°C、路面温度:39°C(予選Q1時)
 コース:鈴鹿サーキット

Qualifying day

シリーズ後半戦のスタートとなるのは、ホームコースの鈴鹿で予選Q1を吉本選手が突破し、予選Q2で河野選手が13位を獲得。
 450kmの決勝レースは定評のあるチーム力で上位入賞を目指す

●SUPER GT 2022 Rd.5 SUZUKA Report

今シーズンも年間8戦のシリーズで競われているAUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES。8月6日-7日には富士スピードウェイで第4戦が開催され、シーズン前半のラウンドが終了した。

シーズン後半のスタートとなるのは、LMcorsaの母体となる大阪トヨペットグループが自社イベントを開催していることや本拠地からもっとも近いサーキットということで、ホームコースとしている鈴鹿サーキットが舞台。8月27日(土)に公式練習と予選、28日(日)には450kmの決勝レースが実施される。今戦も第4戦の富士スピードウェイと同様で、決勝レースの走行距離が通常の300kmの1.5倍となる450kmに設定されている。

昨シーズンからGR Supra GTを投入したLMcorsaは、ニューマシンにも関わらず年間2勝を挙げてシリーズランキング3位を獲得した。GR Supra GTを含めたGT300規定で製作されたマシンが活躍したことによって、今季はマシンの性能調整となるBoP(バランス・オブ・パフォーマンス)の規定が厳しくなり、エンジン出力が抑えられた。



●SUPER GT 2022 Rd.5 SUZUKA Report

苦戦をしているものの、第3戦の鈴鹿サーキット、第4戦の富士スピードウェイでは連続で入賞し、徐々にGR Supra GTのパフォーマンスを引き出している。3戦連続の入賞が期待される第5戦は、27日の9時25分から11時10分までの1時間45分の間で実施された公式練習で走行がスタートした。まずSyntium LMcorsa GR Supra GTには吉本大樹選手が乗り込み、持ち込みのセットアップを確認する。すぐにピットに戻ると続けて持ち込まれたタイヤのチェックなど想定していたメニューをこなしていく。走行6周目と10周目にも吉本選手はピットに戻り再びセットアップの調整を施しコースコンディションに合わせた最適な状態を探っていく。

公式練習のスタートから1時間ほど経過すると吉本選手から河野駿佑選手にドライバー交替し、決勝レースを想定したロングランテストを重ねた。最終的に公式練習の結果は、吉本選手が記録した1分59秒997がベストタイムで、GT300クラスの27台中18番手となった。

<予選> 気温:31℃、路面温度:39℃ (予選Q1時)

公式練習後にはFCY (フルコースイエロー)のテストが20分間にわたって行なわれた。公式練習の感触は決して良いものではなく、この

ままの状況だと予選Q2への進出は難しいことが想定された。FCYテストはわずかな走行機会だが、その間にも予選に向けた最適なセットアップを探った。

今回の予選Q1もGT300クラスは2組にわけられていて、各組の上位8台が予選Q2に進出することになる。LMcorsaは予選Q1のAグループに振り分けられると、吉本選手がSyntium LMcorsa GR Supra GTのステアリングを握った。アウトラップと翌周をウォームアップに充てると計測2周目からアタックに入り、高速コーナーが続くセクター2ではこの走行時点での全体ベストタイムをマークし、結果的に1分58秒768を記録。掲示モニターの3番目にSyntium LMcorsa GR Supra GTが表示された。吉本選手は予選Q2への進出を確信すると、ここでアタックを終えた。予選終盤にはライバル勢もタイムを伸ばしたが、予選Q1のA組の中で7番手のタイムとなり予選Q1を突破した。

GT500クラスの予選Q1を挟んで実施された、GT300クラスの予選Q2は16台によってポールポジションが競われた。予選Q2を託された河野選手も予選Q1と同じくアウトラップと翌周でタイヤやブレーキなどに熱を入れると、計測2周目にアタックを行なう。予選Q1のときよりも攻めたセットアップとしたことで、セクター1でややミスがあったもののタイムは吉本選手とまったく同じ1分58秒768をマーク。最終的に13位となり、明日の決勝レースは13番手から上位入賞を目指すことになる。



Team Comment



Director : 飯田 章

公式練習からドライバーのコメントも含めて今ひとつの状況でしたが、予選に向けてチームが懸命に作業してくれたことや路面温度が上がったことなどもありマシンの戦闘力が増しました。両選手ともに頑張ってくれたことで明日は 13 番手からのスタートとなります。決勝レースは 450km なので荒れることも予想され、通常のレースよりもチーム力や判断が重要になってきます。公式練習から予選に向けて登り調子になっていることを考えると、好レースとなることが期待できるので、ぜひ上位入賞を果たしたいです。



Driver : 吉本 大樹

ここ最近の傾向と一緒に、公式練習ではマシンのパフォーマンスが引き出せないで苦戦しました。決勝レースを想定したロングランのラップタイムもライバル勢に負けています。予選に向けてのセットアップは、チームとともに検討して方向性を見出すことができました。ギリギリでしたが予選 Q1 を突破でき、予選は 13 番手となりました。持ち込んだタイヤと路面コンディションがマッチすれば、明日の決勝レースは期待できます。450km と長い決勝レースなのでチャンスを伺いたと思います。



Driver : 河野 駿佑

公式練習の状況だと予選 Q2 へ進出するのは厳しそうでしたが、チームとともに最適なセットアップを見出すことができ、予選 Q1 を吉本選手が突破してくれました。担当した予選 Q2 ではさらにセットアップを詰めたのですが、やや状況には合わず満足いくアタックとはいけませんでした。本来なら予選タイムよりコンマ3ほど上がったはずなので悔いが残ります。決勝レースは 2 ストップが必要なので、戦略がキーポイントになると思っています。ミスなく、チームのホームコースなので好結果を求めたいです。

